都市型農園「豊中あぐり」視察報告

「豊中あぐり」はどんなところ？

豊中あぐり「岡町菜園」の様子
カボチャ、トマト、キュウリ、スイカ、バジル、イチゴ、シークワーサーなど、季節ごとに多彩な野菜や果物を栽培しています。

- 「豊中あぐり」は男性限定の会員制「農園」です。農業を通じて介護予防を一緒に楽しむ場です。
- 会員が、カボチャ、トマト、スイカなど季節ごとの野菜や果物を沢山栽培しています。
- 都市型農園を拠点に人と人との繋がり、ふれあい、認め合い、支え合う共同空間(コモンズ)を創造することで、社会参加を促進し地位福祉の担い手づくりを目指しています。

農園場所の準備、地域住民の協力

- 豊中市は、定年退職後の居場所や役割がなくなった男性高齢者に対し、どうすれば「居場所と役割づくり」ができるのかを模索していました。
- 豊中市社会福祉協議会の勝部玲子氏の「ボランティアによる地域福祉活動」を紹介する講演を聞いて感動した土地所有者が、自身の土地を無償提供され、この土地で「農園」を拠点に男性の社会参加の場を作ることにしました。
- 地域住民への説明会では、「住宅地に農園をつくることで、虫や臭いの問題が心配だ」との意見も出ましたが、丁寧に話し合い、対策をとることでひとつずつ解決していきました。
- 最終的に地域住民の理解を得られ、平成28年３月から「豊中あぐり」農園がスタートしました。

「豊中あぐり」の運営体制

視察当日も複数の男性が草とり、水やりをしておられました。

- 「豊中あぐり」は、毎月の社会福祉協議会の中に置かれた多団体が参加する運営委員会、実行委員会で運営されています。
- 実行委員会では、毎日の水やり当番、活動日の作業内容、行事の準備、農園の管理などを輪番で行っています。
- 会員は、年会費2000円を支払い、作業時に着用するユニフォーム代等にあてられます。
- 運営は、年会費、寄付、野菜の売り上げなどで行っており、補助金などは使っていません。
- 現在（R5.6月）は、有料老人ホームの屋上や特別養護老人ホーム内などの遊休地を利用することで、8ヵ所の農園を運営しています。

地域への還元

豊中あぐりの地域共生ホームにて行われる朝市の様子（一部）

農園で収穫した野菜や果物は行事を通じて地域に還元しています。

【豊中あぐりが地域で行った行事の例】

- 収穫した農作物の朝市での格安販売
- 収穫体験（子ども収穫体験、親子収穫体験、稲刈り、芋ほりなど）
- 豊中市長や豊中出身の女優さんらを招いた、そうめん流し、餅つき大会などのイベント

活動を継続できるコツは
「地域に根差すこと」

移動販売車「豊中あぐり　動くマルシェ」（通称「あぐりマル」）

移動販売車「豊中あぐり　動くマルシェ」

- 農園で採れた新鮮な野菜を車に載せて、移動しながら販売しています。
- この車は、赤い羽根共同募金により購入しました。
- 野菜だけでなく日用品も販売しています。
- ひとり暮らしの高齢者に対する安否確認にも一役買っています。

豊中市は店舗規制がある地域のため、近くに
スーパーが無い方にも新鮮な野菜が届けられる
移動販売は好評とのことです

なぜ、農園なのか

建築基準法により再建不可の土地を利用した岡町第二農園

農園作業は多くのメリットがあります。

①野菜は成長するため、訪れるたびに変化がある
②必ず何かしら役割がある
③今まで培った経験を活用して社会貢献できる
④農作業により活動量が増えるため健康面での効果もある

参加者からは

「仲間ができた」、「人の役に立ててる」

「人間関係が広がった」「血糖値が下がった」

「医者に酒を飲んでもよいと言われた」

との喜びの声が上がっています

なぜ、男性のみなのか

- 「男性の定年後の居場所づくり」が地域課題としてあり、農園が居場所づくりになるかも、という発想がはじまりです。
- ここでは、男性が通いの場を利用するためには、①生産性、②役割、③社会貢献　の要素が重要だと分析しています。

【役割の例】
・来客時の準備担当（お茶くみなど）
・草刈り担当
・ホームページ作成担当
・カメラマン担当

これらの「役割」があることで
「やる気」につながります

ユニバーサル農園

会員自らが敷き詰めたレンガの道

- ユニバーサル農園とは、年齢や障害の有無にかかわらずでも誰でも参加できる農園のことです。
- 障害のある方でも参加できるように、農園内の道幅は車いすが通れるよう設計している、畑を囲むブロック塀と板は少し高く設置されているなど、いくつかの工夫が施されています。
- 地面には凸凹をなくすため、約5000個のレンガが敷き詰められています。このレンガは会員の手で敷き詰め作業を行っており、この作業を通して、会員同士の関係性を深めることができました。

SDGｓ、脱炭素農園

- 農園の土の堆肥は、小学校の給食の生ごみから作られています。
- 調理しないニンジンの葉っぱは馬の飼料へ使われています。

壁画

カラフルな壁画

- 農園を囲むコンクリートブロック壁にはカラフルな壁画が描かれています。
- この壁画、６年間引きこもりであった学生が描いたものです。
- 社会福祉協議会主催の「住民と壁画を描くプロジェクト」により、50回以上も学生の自宅に訪問することで関係を築き、一緒に壁画を作成しました。
- この学生はその後社会進出することができました。
- 引きこもり支援に関する情報は、小学校区ごとの福祉委員会と共有しています。

地域共生ホーム　豊中あぐりぷらす「和居輪居（わいわい）」

豊中市社会福祉協議会の勝部玲子さん。視察時に「豊中あぐり」の活動、経緯を教えていただきました。

オレンジカフェ活動時には、このオレンジの「暖簾」を使用します

- 豊中あぐりの活動にプラスして、さらに地域交流場所として運営しています。
- 空き家の所有者が無償でハウスを提供してくれました。
- 地域の大切な「通いの場」となっています。

【「和居輪居」での交流例】

- 「こども食堂」を開催。農園で収穫した野菜も提供し、シニアと子どもとの交流を図っています。
- 認知症の「オレンジカフェ」を開催。認知症の方とその家族の方の憩いの場です。
- 春休みと夏休みの期間は「子ども広場」を開き囲碁教室やぬり絵を教えています。
- そのほかにも、裁縫教室、麻雀教室、スマホ教室、料理教室やコーヒー講座、そば打ち、ピザづくりなど多種多様です。

農業の６次産業化

シークワーサービール（左）
芋焼酎「豊中あぐり」（右）

菜園で採れた野菜を使ったレトルトカレー

- 収穫した野菜などは、そのまま販売するだけではなく、地域の会社と協力することで、シークワーサービール、芋焼酎、カレー、コロッケ、お米、ジャムなど、さまざまな形に加工し、一部販売までを行っています。（お酒の販売はおこなっていません）
- レトルトカレーの加工は中小企業支援の補助金（中小企業チャレンジ事業補助金）が活用されており、豊中市のふるさと納税の返礼品となっています。

【農業の６次産業化とは】

農作物などの生産（１次産業）だけでなく、食品加工（２次産業）、流通・販売（３次産業）にも取り組み、活性化させていこうというものです。

「１次産業×２次産業×３次産業＝６次産業」

視察を終えて…

- もともとは、定年退職後の男性の居場所づくりとして始めた農業でしたが、豊中社会福協議会の事務局長である勝部氏は、農業には、「高齢男性の通いの場」として重要な要素である①生産性、②役割、③社会貢献のすべてがそろっていることに気づいていました。そこで情報収集、活動の場の確保、運営などを社協や地域住民など、さまざまな方とつながることで現在の形へすこしずつ変化し、できたものが現在の「豊中あぐり」です。
- 「豊中あぐり」に参加したことで高齢男性は、「居場所」と「役割」を得ることで、とても活き活きとされていました。
  そして、高齢男性の居場所づくりにとどまらず、「豊中あぐり」の農園を拠点として、年齢や障害の有無に関わらず社会参加につながる活動に成長し、地域全体の活性化へとつながっています。
- 勝部氏の講演を聴いたことでうまれたつながりから始まり、地域住民からの理解、新たな活動の創出など、「豊中あぐり」が今に至るまでの過程を直に聞かせていただけたことは、私達近畿厚生局の職員にとって、非常に貴重な経験となりました。

農園の壁画前で会員と一緒に

「和居輪居」前で会員と一緒に

夏には８番目の拠点
「あぐりパーク」にて
令和５年８月下旬
ヒマワリ迷路が完成予定！